

## 2022 年度第 4 回渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会 会議録

### 1 日時

2023 年 3 月 29 日（水） 午前 10 時から正午まで

### 2 場所

東三河総合庁舎 301、302 会議室

### 3 出席者

渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会 構成員

### 4 会議内容

#### (1) 開会

#### (2) あいさつ（農業水産局農政部農業振興課 野生イノシシ対策室 小出室長）

- ・野生イノシシの豚熱の感染状況について、今年度は 28 件と昨年度 7 件と比べ増加しているとともに、陽性が確認された市町村についても 1 自治体から 4 自治体に増加しており、再度拡大している傾向が見られる。
- ・養豚場については、例年春期に確認されている事例が多いので、関係者の皆様には改めて防疫措置の徹底を呼びかけていただきたい。
- ・今回の協議会では、生息状況調査や効果的捕獲促進事業の結果、今後の取組等について報告させていただくので、率直な意見をいただきたい。

#### (3) 議事（議長：野生イノシシ対策室 小出室長）

##### ① イノシシ捕獲に係る取組状況について

- ・資料 1、1-1、1-2 に基づき事務局から説明。

##### 【概要】

- ・田原市及び豊橋市のイノシシの捕獲頭数について、2021 年度と比べ、4～6 割増加している。
- ・特に大山山塊と宇津江での捕獲頭数が大きく増加している。
- ・表浜沿い緑地については、全体として横ばい傾向だが、豊橋南部が 2021 年度と比べ増加している一方で、赤羽根や田原東部では前年度と比べ減少している。
- ・県が実施した指定管理鳥獣捕獲等事業（以下、「指定管理」という。）の CPUE について、2021 年度と比べ、箱わなについては増加、くくりわなについては減少した。
- ・捕獲されたイノシシについて、猟法ごとにみると、箱わなに比べ、くくりわなで捕獲された個体は成獣の割合が高かった。
- ・県内の他の地域のイノシシの捕獲状況について、2021 年度と比べ、ほとんど

の地域で増加しているが、豚熱の陽性個体が確認された一部の市町村では減少している。

#### 【質疑・意見等】

(有識者) 捕獲の時期について、7～10月に捕獲頭数が増加しているとのことだったが、一般的にこの時期は比較的幼獣が捕獲されやすい時期。捕獲頭数増加の要因はどうか。

(事務局) お見込みのとおり。捕獲された個体のうち、幼獣が比較的多かった。

(有識者) CPUEについて、一般的に箱わなよりくくりわなの方が高くなる傾向があるが、指定管理では逆の傾向が見られる。これは箱わなにより幼獣が多く捕れているからなのか、それとも、誘引が十分にされて捕獲につながっているなど、他の要因があるか。

(事務局) 指定管理については、箱わなとくくりわなを同時に実施するのではなく、最初(夏期)は箱わなを中心とした捕獲を実施、箱わなによる捕獲が難しくなる時期(秋期)からくくりわなを中心に実施するようにしている。くくりわなは箱わなである程度捕獲されてから実施しているので、くくりわなのCPUEは低くなっているとみている。

(有識者) 指定管理で実施されているように箱わなの捕獲法を、有害捕獲が実施されている他の地域に応用することで、有害捕獲のCPUEも上がると考えられるか。

(事務局) そう考えられる。

(有識者) 今後、渥美半島での捕獲頭数を増やすための考えが重要になってくると思うので、そういったことを蓄積していった活用して欲しい。

(狩猟連合田原) 指定管理の場合、今まで箱わなが設置されていなかった場所に設置している例が多いので、箱わなの捕獲率が高くなったと思う。

また、箱わなでまとめて捕獲するために、くくりわなを同時期に実施してしまうと警戒して捕獲できなくなるので、実施していなかったため、くくりわなのCPUEが低くなったと思う。

また、赤羽根でイノシシの捕獲数が減少している要因として、イノシシの移動防止柵が設置されてから、野犬の動きが変わったことで、安全な場所を求めるイノシシが寄りつかなくなった。

## ② 効果的捕獲促進事業の実施結果について

- ・ 資料2に基づき事務局から説明

### 【概要】

- ・ 移動式囲いわなと簡易柵による囲い込み捕獲等を実施した。
- ・ 前者について、捕獲実績があったが、イノシシやタヌキ等の小動物によりワナに穴を空けられるなど損傷があったほか、ワナへの誘引のため運用方法の検討が必要などの課題があった。

- ・後者について、捕獲実績はなかったが、効率よくイノシシを発見できた。ただ、簡易柵について、イノシシにより破損されたことから強度に課題が確認された。

#### 【質疑・意見等】

(有識者) 岐阜大学でも同様に、移動式囲いわなを使用したことがあり、報告にもあったように小動物による損傷が確認された。

この手法により、1頭イノシシを捕獲できたが、その後暴れて逃げられてしまった。他の地域では効率よく捕獲できている報告があるが、渥美半島で適用するにはまだまだ検証が必要だと思う。

誘引についても、移動式囲いわなの中に入るまで時間を要したので、給餌体制が重要になると思う。また、わなを設置していない給餌地点に誘引できるまで時間がかかっていた。イノシシについては慣れるまで時間がかかるので、そういったことを踏まえて体制等をつくる必要があると思う。

#### ③ 今後の取組について

- ・資料3、3-1に基づき事務局から、資料3-2に基づき、豊橋市、田原市から説明。

#### 【概要】

- ・取組の指標について、捕獲に係るものは増加、生息状況に係るものは減少した。
- ・地元寄せられるイノシシの被害相談は増えているとともに、県内の状況から渥美半島への豚熱の侵入リスクが高まっているので、捕獲圧の維持は不可欠。
- ・捕獲を効果的に進めるために、今後、有害捕獲の捕獲従事者に向け、生息状況調査の結果や捕獲情報の共有を図っていきたいと考えており、地元市には御協力いただきたい。
- ・2カ年事業であった効果的捕獲促進事業は今年度で終了するが、今後、検証した手法を指定管理鳥獣捕獲等事業に導入することを検討してきたい。
- ・捕獲支援のため、地元捕獲者団体に提供していた誘引餌である米ぬかについて、価格の高騰が続いており、量の確保が困難になってきている。今後、提供法の見直し等検討をする必要になる可能性があるため、その際は協力いただきたい。
- ・豊橋市では2023度、箱わなを新たに4基購入し、要望のあった捕獲団体に貸与する予定。また、2022年度から3年計画で、市の北部に侵入防止柵の設置を進めており、2023年度も継続して進めていく予定。
- ・田原市では、2022年度に新たに狩猟免許を取得し、これから有害捕獲に参加される予定の方が多かったため、貸与するためのわなについて2022年度より増やす予定。

#### 【質疑・意見等】

(有識者) 各指標について評価されているが、全体的な報告を見る限り、捕獲については「微増」、生息状況については「微減」だと思う。こういったことを踏まえ、今後、県としてどうしていきたいかはっきりと示す必要があると思う。

特に田原市について、イノシシを根絶するのか、数を減らすなど明確にする必要がある。根絶するのであれば、もっと捕獲数を上げていかないといけない。そのために、どこを強化するのか整理が必要。他の事例でイノシシの生息密度が50~60頭/km<sup>2</sup>のところ、その半分を捕獲しても数が減らないと例もあるので、より多くの捕獲頭数を挙げるために体制強化が必要。

#### ④ その他

- ・ 次回の協議会は6月頃開催したいと考えている。